

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Prenatal alcohol exposure and adverse fetal growth restriction: findings from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊婦のアルコール摂取量と胎児発育との関連:エコチル調査からの知見

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pediatric Research

年: 2021 DOI: 10.1038/s41390-021-01595-3

筆頭著者名: 長 和俊

所属 UC 名: 北海道ユニットセンター

目的:

妊婦のアルコール摂取量と胎児発育との関連に関する日本の研究は過去にほとんどありませんでした。そこで、本研究では、妊婦のアルコール摂取が胎児発育に及ぼす影響を調べることを目的としました。

方法:

エコチル調査に参加した 95,761 名の妊婦と生まれた子どもを対象としました。妊婦のアルコール摂取量は妊娠中期及び妊娠末期の質問票から算出し、子どもの出生時体格は医師への質問票から情報を得ました。妊娠中の非飲酒者集団を基準とし、妊婦の飲酒量による子どもの出生時体格への影響を調べました。出生時体格は、体重・身長・頭囲それぞれの標準偏差(SD 値; データのばらつきを大きさを表わす指標)で表しました。

結果:

妊娠中期及び妊娠末期における妊婦のアルコール摂取量の増加は、子どもの出生時の体重・身長・頭囲の減少に関連しました。特に、妊娠中期及び妊娠末期に妊婦のアルコール摂取量が1週間あたり5gを超えると、子どもの出生時の体重の減少、20gを超えると出生時の身長の減少、100gを超えると出生時の頭囲の減少に影響しました。

考察(研究の限界を含める):

本研究における、妊娠中期及び妊娠末期の妊婦の少量のアルコール摂取と子どもの出生時体格との関連は、諸外国における過去の研究においても報告されています。なお、遺伝的要因、生理学的要因、妊婦自身の栄養状態等は、妊婦のアルコール摂取量と子どもの出生時体格の両方に影響を与える可能性があります。これらを考慮していないことが本研究の限界として挙げられます。

結論:

妊婦の少量~中等量のアルコール摂取は、子どもの出生時の体重・身長・頭囲の減少と関連があることを明らかにしました。妊娠中のアルコール摂取は、少量であっても避けることが望ましいと考えられます。